

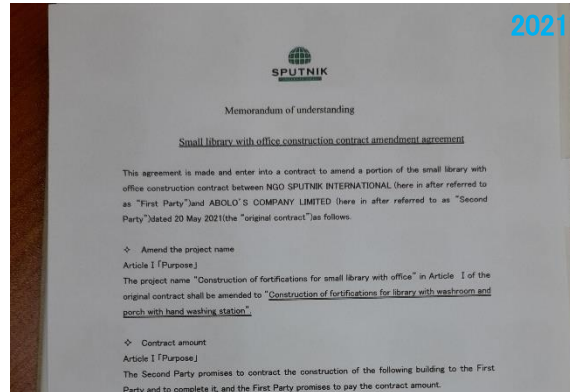


図書館建設プロジェクト Vol. 3

～プロジェクト名は水洗トイレ付図書館建設プロジェクト～

“Library with washroom and porch with handwashing station”

2021年6月28日



追い風に似た温かい風を感じた日から2週間、現場の作業は6月11日金曜日の後はしばらくまた作業が行われませんでした。作業再開となったのは、6月25日金曜日、実に2週間ぶりの作業となりました。曇天の中、屋根の骨組み作業が行われました。建築現場の作業は中止になったもの、突然起こった水洗トイレ設置の費用についてコントラクターとワッサップによる連絡の取り合いは続きました。今回の報告はその連絡の取り合いを含め、トイレの現状などをお伝えしていきます。

6月16日の夕方～17日午前中

コントラクターから水洗トイレの見積もりがきました。その見積もり金額(もうすでにトイレの設置場所の工事が始まっているので、正確には見積もり請求額です。その額は、最初に契約し今月10日に最終支払いを済ませた工事費の47%でたいへんな金額に驚きコントラクターに最初の工事費の47%はあまりにも高く、また輸送費が含まれてなくこれで輸送費が入ったら到底払えないので、輸送費は最初の契約時のものでどうにかならないかと打診しました。またこの額は日本側も驚く金額であり、簡単には作れる金額でないことを伝えました。

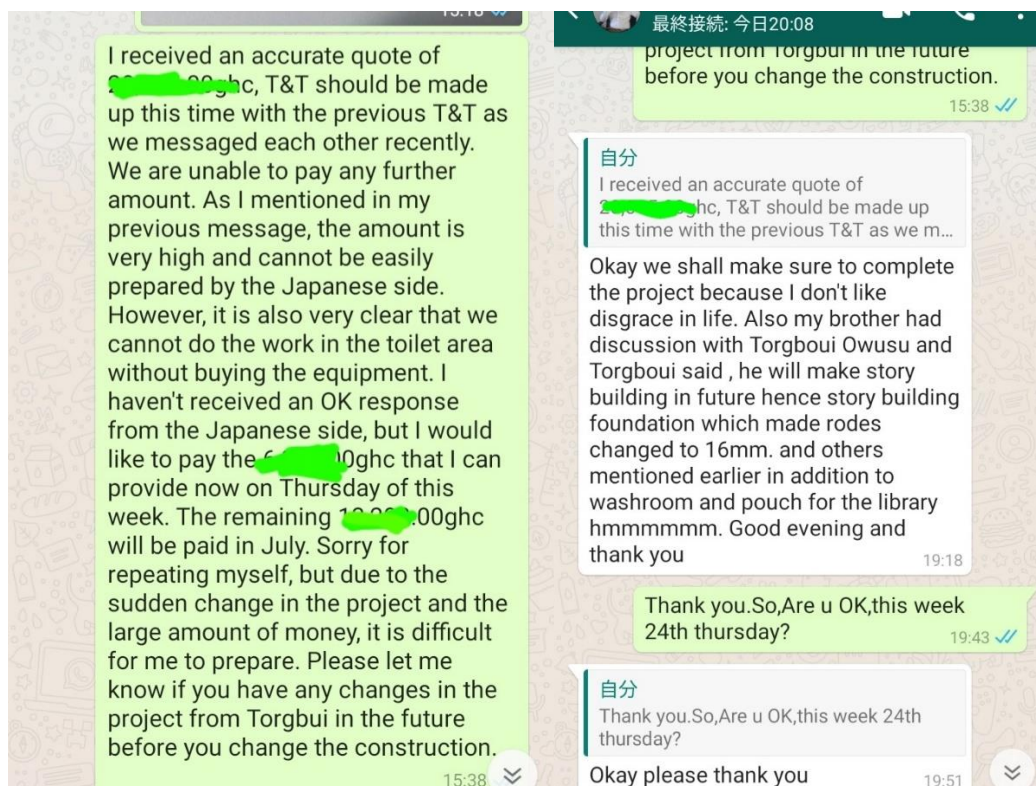
6月17日午後

見積もりにはトイレの窓代金が含まれていないことに気づき、窓代金についても打診のメッセージを入れました。当初の建物より小さくなった分、窓も小さくなるのなら、その分の費用をトイレの窓に充てるなどしてコストを抑えることは出来ないか？あまりにも高すぎるコストに日本側も簡単に費用は作れないとまた伝えました。しかし、このように打診はするものの、建築資材が高騰している中、無理なことは感じていました、もしかしたら47%が50%になってしまうかもしれないと予想はしていました。そして決してやってはならない打診として、作業員コスト(Labour)は「ちょっとぐらいやってくれてもいいでしょ？」の思いで削ってはならない、言うてはいけないとして、どこか考えを出せば削れる案を考えました。

見積もりは出ないまま週末を迎えました。

6月21日 再度、正確な見積もりが出ましたかと朝イチで打診するなか、コントラクターに今回の

プロジェクトを依頼した想いを伝えました。午後になり、コントラクターよりトイレの窓代金を入れた見積もりがきました。予想していた通り、50%になっていました。



上記、正確な見積もりを得た後のやりとりメッセージです。日本側のオーケーを貰わずに今揃えられる分の額で支払う事を決めたものです。建築資材を購入しない事には次に進めないことを十分知っているからです。トイレ部分が増えたために当初の屋根は仕様変更になります。図書館部分を半分にしてポーチ部分を作るだけなら屋根の大きさは変わりません。しかし、トイレ部分が増えただけで屋根に仕様変更が出てきます。そのため、今回の水洗トイレ設置にかかる建築資材を購入するための資金が必要になってくるのです。私のメッセージに対してのコントラクターの返事に、今回のプロジェクトを彼に依頼して良かったと思えました。お互いの信頼と信用が無ければ大きなプロジェクトを動かすことが出来なく、また勝手ながらコントラクターも現場で作業してくれている作業員もチームメイトだと私は思っています。

6月22日 最初に交わした契約書に基づいて覚書を作成しました。プロジェクト名が変わる事、またその支払いを約束するので、この建築をしっかり完成させることを約束してほしいというものです。契約書よりも依頼主よりもチーフの権限が重んじられるガーナにはふさわしくなく手間のかかる仕事なのかもしれませんが、コントラクターを信頼し信用しているからナアナアな関係ではなくお金の関係するものだからこそ作成をしました。この覚書の誤字脱字チェックは翌日、知り合いの中学教員免許を持つガーナ人にお願しました。

6月24日 コントラクターに今回の工事費の34%を支払うとともに覚書を確認しあいサインをしました。今回支払った費用に使ったお金は、去年2月に格安で購入できたエチオピア航空のチケ

ットをキャンセルし返金したものとギブアウエイさまから載っていた活動資金を宛てました。

今回の水洗トイレ設置プロジェクトに関して



トイレの窓部分に足場が置かれたままの状態でした。

今プロジェクトに必要な不可欠な大ジェスタータンクも設置されます。また、手洗いスペースとしてポーチ内(図書館入り口横)に手洗い所が設置されます。



ダイジェスタータンク
同タイプのもので設置される



同タイプのもので図書館入口に
設置される

現在ガーナの農村部における学校のトイレは下記の写真のような形式が一般でコンクリートに穴が開いたトイレが一般的に設置されています。使用済みのノートの切れ端は穴には捨てず隅に置くのが主流です。現在は学校の敷地全面に塀が作られたため、村人が勝手に利用することはなくなりましたが、以前は村人の利用もあり、たばこを吸う村人がボヤを起こすことも度々ありました。



村にある学校の一般的なトイレ

数年前に首都アクラから車で一時間弱の場所にある私立の学校を訪問したことがあります。その学校は周辺のインフラ整備が整っていないというのに水洗トイレでたいへんなカルチャーショックを受けたのを覚えています。また大使館の草の根で建てられた畳敷きの日本文化教室もあり、教育格差、貧困、地域格差と様々な問題が頭をぐるぐるまわりました。国連が2030年をゴール目標に定めた17の項目の中に『6安全な水とトイレを世界中に』があります。これを目にした時に(農村部でノートの切れ端で尻を拭いているような場所には到底不可能)と思い込んでいました。ところが、きっかけはどうか、今まさに自分が(到底不可能)と思っていた水洗トイレの設置プロジェクトをし始めたところなのです。夢だった図書館建設まで10年の長い年月があった中(到底無理)と思っていた水洗トイレ設置も夢ではなくなったのです。トイレ個室に通常ならある手洗い場所をなぜわざわざ入り口に設置するのか？水洗トイレと手洗い所設置とプロジェクト変更させたトビイ氏をはだかの王様と見ている自分も正直否めませんが、トビイ氏には先見の明あってこのようなプロジェクト変更を言い渡したに違いないと思う自分もいます。どちらにしても水洗トイレと手洗い所付きの図書館建設は、のちのガーナの図書館モデルになるくらいの知性のたくさん詰まった建物として完成をさせます。



Covid-19 をきっかけに学校やホテル、スーパー、官庁などには手洗い所が設置されました。



14日の週より国税調査が始まり、建設中の図書館も国税調査に入った印が記されていました。
水洗トイレ付図書館建設プロジェクトサポーター 一般社団法人ギブアウェイ様